

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	学校法人・小倉幼稚園
活動日時	令和7年5月～10月
学級名	ゆり・もも組（3歳児）たんぽぽ（2歳児）
年間テーマ	身体作り（食育）



1. 活動テーマ

<テーマ>

食育「夏野菜を育てる、収穫、食べる」

<テーマの設定理由>

遊んでいる子どもたちをみると、体幹がなくフラついたり、暑さに慣れずすぐに疲れたりする姿が目立つようになった。育てやすい夏野菜を育てることで成長の過程を学び、実食することで美味しさや身体にいいものと気づき、食べてみようという意欲をもってほしいため。

2. 活動スケジュール

- *ミニトマト・ピーマン・パプリカ・キュウリ・トウモロコシを苗から育て水やりを子どもが行い成長を観察する。
- *育った野菜を収穫し、実食する。
- *全員が収穫できなかったので、製作で疑似収穫する。
- *できるまでの過程や興味・関心の広がりやドキュメンテーションなどで保護者と共有し、家庭でのきっかけ作りにもなるようにする。

3. 探求活動の実践

<活動内容>

環境の設定	活動中の子どもの姿・声
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育室の前や園の門脇など、毎日子どもの目につく所にプランターに植えた野菜を配置する。 ○ 水やりを当番の子どもが行い成長を観察できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「黄色い花が咲いた!」「これパプリカ?」と変化に気づく姿がみられた。 ・「おおきくなあれ」と声をかけたり保育者と育てる楽しさを共有した。  

○ 収穫する
ミニトマト・キュウリ
ピーマン・パプリカは収穫できたがトウモロコシは暑さでそだたなかった。

○ 実食する
(食べやすい大きさにカット)

○ 絵画で野菜の成長を表現
(キュウリの種を指スタンプで表現するイメージができるよう活動前に観察する)

○ 収穫体験を全員ができるように製作で野菜を作り疑似収穫をした。

○ シャベル・軍手を用意

○ 育てるところから収穫までを模造紙にまとめ作品展で保護者と共有。

・みんなの前で代表者が収穫をした。キュウリの葉がザラザラしていたり収穫したてはトゲトゲしていることに気づいた。

・一口サイズに切ると食べたいという声が出る。(断面を観察する)



・「美味しい! 甘い!」という声で食べてみようという気持ちが芽生えた。

・「採れたてのキュウリはどんなだったかな?」等と会話を楽しみながらイメージを膨らませた。



・自分で作った野菜を収穫することで満足感を味わった。



・サツマイモ掘りでは1人で土を掘り収穫の大変さを感じる事ができた。



4. 振り返り

5月から育て始めて「お花が咲いた!」「小さな実が可愛い!」と普段感じることのできない気持ちに出会うことができた。スーパーなどで育ちきった野菜を当たり前のように見てきた子どもたちにとって育てる大変さや楽しさにも気づけたのが良かった。実食するときに普段野菜を残す子どもも食べてみようという刺激を受け、挑戦する姿が見られたことが印象的だった。野菜に対するイメージがこれをきっかけに、よりよく変わった体験だった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	学校法人・小倉幼稚園
活動日時	令和7年4月～2月
学級名	きく・さくら組（4歳児）
年間テーマ	身体作り（運動）



1. 活動テーマ

<テーマ>

運動「楽しく身体を動かし体幹・体力強化」

<テーマの設定理由>

園外保育に行った時に飛び石などがあると、それを飛んでみたり縁石を歩きたがる姿がみられたが、すぐに「疲れた」「もう歩けない」と言った声が聞かれ基礎体力不足が課題であると感じられた。そのため、日常の遊びの中で楽しく体を動かしながら体力や体幹の強化に繋がっていきたいと思ったため。

2. 活動スケジュール

*縄跳びカードを配布し、目標を持って取り組めるようにすると共に花丸をもらうことで意欲や達成感に繋がるようにする。

*握力・腕力・脚力のアップのため、鉄棒やマットで遊ぶ。

*体力向上に向けて、トンネル・フープ・平均台などを使ってサーキット遊びをする。

*保育参観にてサーキット遊び、縄跳び、マット、リレーを披露する。

3. 探求活動の実践

<活動内容>

環境の設定	活動中の子どもの姿・声
○ 縄跳びカードを配布し目標を意識しながら取り組める様にする。	・ 縄跳びカードを見ながら「次はこれをやる!」「花丸ほしいな!」と目標を意識して繰り返し取り組む姿がみられた。
○ 握力や腕力を養う為、鉄棒やマット遊びを取り入れる。(鉄棒の下に衝撃を吸収するマットを敷き	・ 鉄棒にぶら下がりながら「見てて!」「まだできる!」と楽しみながら挑戦したり、腕の力を使って体を支えようとしていた。

安全に挑戦できる場を設定する。

○ トンネルやフープ平均台などを組み合わせたサーキット遊びを設定し、全身を使った多様な動きを楽しめるようにする。

○ 保育室やホールなどで、ビーンズバランスをできるように持ち運びできる様にした。

○ 友達ができる様子を見ることで、刺激を受け「やってみよう!」と意欲を持って取り組めるような雰囲気作りを心掛けた。

○ 保育参観で1年間の取り組みを披露する機会を設ける



・ サーキット遊びでは「もう1回やりたい」「楽しい!」と全身を使いながら様々な動きを楽しんでいた。

・ ビーンズバランスをゆらしてバランスをとったり、横に並べて連結させシーソーにしたり、大小組み合わせでこぼこ道を作ったり、自由な発想でレイアウトして楽しんでいた。

・ 友達が縄跳びを長く飛んでいる姿を見て刺激を受け、これまで難しく感じていた子も挑戦しようとする姿が見られた。

・ 保育参観では見てもらう喜びや達成感を感じ自信に繋がっていた

4. 振り返り

今回の活動では様々な体の動きでを経験した事によって基礎体力の向上や身体操作のぎこちなさからしなやかさへと動きのレベルアップができ、体を動かす楽しさを深く味わうことができた。特に縄跳びでは、1人1人がカードを持ち目標を立てて積極的に取り組んでいた。花丸が増えていく達成感や、できた自信、友達同士切磋琢磨する姿勢、できないことにも前向きに挑戦する意欲が高まり、これらの経験の積み重ねが成長に繋がった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	学校法人・小倉幼稚園
活動日時	令和7年12月
学級名	うめ・ふじ組（5歳児）
年間テーマ	科学



1. 活動テーマ

<テーマ>

(科学) 引き合う・離れる磁石のパワー

<テーマの設定理由>

子どもたちは、日常の中で「どうして水は流れるのか」「なぜ影はできるのか」などの様々な疑問を保育の中で科学的な視点を取り入れることで、好奇心や思考力・主体的に学ぶ力を育てたいと思ったため。

2. 活動スケジュール

*身近な不思議に興味を持たせる実験テーマを決める。

*磁石のブロックに興味を持って遊んでいたため磁石をテーマに決める

3. 探求活動の実践

<活動内容>

環境の設定	活動中の子どもの姿・声
<ul style="list-style-type: none"> ○ 磁石について興味を持てるように色々な形の磁石を手にとれるようにした。 ○ 磁石が付きそうな物を準備し、くつつくかどうか問いかけ子どもたちが自分で考え、実験を通し確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 磁石を手にして「これ知ってるよ。」 「おままごとの人参についてるよね。」と次第に興味をもち、くつついたり離したりする。 ・ 椅子のあしやテーブルのあし、缶の箱やクリップなどにつけてみる。だんだん部屋を見回しくつつく物を探して実際につけてみる。 ・ くつつく物を見つけると友達に「これもくつつくよ」と教えあったり、「あれはくつつくかな？」等と身の回りのくつつく物、

○ S極とN極を反発させてみる。

○ 大きい磁石にクリップを近づけて見たり、離してみたりしてみる。

○ 動物のシールを貼り鬼ごっこゲームをする

○ 振り返りシートを配る

つかない物の探求を楽しんでいた。

・ 近づけると逃げていく磁石に「まで〜」「どこ行くんだ〜」と目を輝かせていた。

・ 紙の筒をたてて二つの磁石をいれ上下に反発させると「浮いたー！先生～みてみて凄いね」と手をたたいて喜んで



・ 磁石の上に動物のシールを貼ると磁石の反発でくるくる回転させると「スケートみたい」と何度も回転させていた。



・ ワークシートを記入し磁石パワーを振り返りました。

4. 振り返り

「かがくタイム」を通して「どうして?」「なぜ?」と不思議に思う気持ちが生まれ探究心へと繋がっていった。「試してみたい」「やってみたい」という気持ちから新たな発見をしたり、友達と協力して解決したり等、協調性も養われた。これからも考える力や、自分で問題を解決していく力が育っていくよう見守っていきたい。